国際医療福祉大学　2017年4月27日発行　学校法人国際医療福祉大学
http://www.iuhw.ac.jp/

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol.109
April
2017

平成29年度 入学式

平成28年度 学位記授与式

医学部 入学式・開設記念式典

特集1 医学部 入学式・開設記念式典

医学部 入学式・開設記念式典

千葉県成田市に新設された医学部の入学式・開設記念式典が、四月二日、成田国際文化会館で開催されました。式典には国内外から約一二〇〇人に御臨席いただき、高木邦格理事長、大友邦学長の式辞の後、山本幸三・内閣府特命担当大臣、森田健作・千葉県知事をはじめ七人の来賓の皆さんから、お祝いの言葉を頂戴しました。

開設記念コンサート

入学式に先立ち、東京フィルハーモニー交響楽団によるコンサートを開催しました。ブラームスの『大学祝典序曲』をはじめ全四曲が演奏され、会場は厳かな雰囲気に包まれました。

●指揮:渡邊一正
●テノール:福井 敬　●管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団

式辞（要約）

学校法人 国際医療福祉大学
理事長 高木 邦格

アジアを代表する医学部をめざす

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。約三〇倍という入試の難関を突破された皆さんを第一期生に迎えることができ、うれしく思います。また、これまで支えてこられた保護者の方々に心よりお祝い申し上げます。

本日は国内外から多くの方々にご臨席いただいております。この日を迎えることができましたのは、皆様のご指導、ご協力の賜と心より感謝申し上げます。また、多くの企業や個人の方々から寄付を賜り、改めて御礼申し上げます。

本学では、チーム医療の中核となる医師を育成したいという思いから、一〇年以上前に、新しい医学教育の実現に向けて、新医学教育制度に関する検討会を発足させました。さらに、二〇一〇年には医学部設置準備委員会を発足させました。委員長の開原成允先生、副委員長の金澤一郎先生亡きあとは、北島政樹名誉学長、天野隆弘大学院長、矢崎義雄総長がその遺志を継ぎ、教職員が一丸となって本日を迎えました。

各国の医学部を視察し、今必要とされる新しい医学部やカリキュラムの検討を進めましたが、多くの障害により実現に至りませんでした。医学部の新設は法律ではなく、大臣告示のみで規制されております。この規制は違法性が高いことを確認し、二〇一三年には行政訴訟に踏み切る決定を下しました。そんな折、NHKのニュースで、岩盤規制に突破口を開ける国家戦略特区の募集を知りました。一方で、二〇一〇年から医科大学構想に関するシンポジウムを開催されるなど、医学部や医療クラスターの誘致に積極的に取り組まれていた成田市を千葉銀行からご紹介いただきました。当初、本学のメインキャンパスのある栃木県での開設を検討しておりましたが、小泉一成市長、関根賢次副市長から情熱をもって誘致いただいた結果、国家戦略特区に共同提案するという合意に至り、二〇一三年秋、国際医療学園都市構想を提案いたしました。

その際に私が強調いたしましたのは、超高齢社会の進展にともなって疾病や年齢構造が変化するなか、さらには、憲法上、教育の自由が保障されているにも関わらず、なぜ四〇年間も医学部の新設が認められないのかということでありました。新規参入を認めていないのは先進国では日本だけであり、首都圏の高齢者人口の増加による医療需要の増加、先進的なiPS研究や医薬品の開発、海外を視野に入れた医師の育成などを考えたとき、新規参入と競争が必要であるとお話ししました。特区の医学部に対して、内閣府、文部科学省、厚生労働省から国際医療拠点としてふさわしい教育と人材採用など、いくつかの条件が示されましたが、本学はそれをはるかに超える医学部を作ろうと努力いたしました。

新入生の皆さん、医師の社会的責任を自覚し、経済的なことを目的とするのではなく、海外での医療協力や地域医療に貢献するほか、先端的医療や基礎医学の分野でも活躍していただきたいと思います。六年間のフルスカラシップを受けている留学生の皆さん、これだけの奨学金を受けるのは日本人でも難しく、とても恵まれた環境にあります。奨学金の目的は、皆さんが母国の医療水準を向上させる医師になることです。どうかその自覚を忘れずに勉強してください。本学は「チーム医療・チームケア」に貢献できる医療福祉専門職を育成している大学です。皆さんはその「チーム医療・チームケア」の船長として、他職種に対する尊敬の念や思いやり、患者様に対する慈しみなどを忘れない医師になってください。

現在建設中の教育棟が完成いたしましても、国際医療学園都市の完成までには多くの課題が残されており、関係各位のご協力を仰がなければなりません。どうぞ引き続き、ご指導をお願い申し上げます。六年後の完成年次には、成田市に在籍する学生や教職員は約五千人になり、国際医療福祉大学成田病院が完成し、医療関連の企業や研究所、海外からの患者様がお見えになりますと、一万人を超える人々が集うことになります。そして、将来、必ずや本学がアジアを代表する医学部になることを信じております。

安倍晋三内閣総理大臣ビデオメッセージ

また、来賓紹介に先だって、安倍晋三内閣総理大臣からのビデオメッセージが披露されました。

医療界・教育界の新しい流れに期待

皆様、こんにちは。内閣総理大臣の安倍晋三です。本日の国際医療福祉大学医学部の開学、そして、第一期生の皆様のご入学を心よりお祝い申し上げます。

国家戦略特区では、これまでに多くの規制改革を実現してまいりました。その中でも、成田市の医学部の新設は長年にわたり実現が難しいものでありましたが、多くの関係者のご尽力により、本日、三八年ぶりに実現する運びとなりました。この医学部では、アジア各国の政府から推薦を受けた留学生の受け入れや経験豊富な外国人教員の採用など、グローバルな医療人材の育成のための新しい試みを実践します。また、すべての学生に海外での臨床実習を必修科目とするなど、世界中の医療現場で活躍するためのカリキュラムが組まれるとお聞きしています。私はこの試みが全国の大学それぞれに、「自分の大学は何をめざしているのか」という意識を芽生えさせ、医療界・教育界の新しい流れを作っていくものと期待しています。

最後に、本日開学したこの国際医療福祉大学医学部を拠点とし、医療界の新しいリーダーとして世界に羽ばたいていくことを祈念して、私のお祝いのメッセージといたします。

●ご登壇いただいたご来賓のほかにも、多くのご来賓が紹介され、厳かに進行した。

IUHW International University of Health and Welfare vol.109 April 2017 CONTENTS

2-7 特集1 医学部 入学式・開設記念式典
8 特集2 平成29年度 学部・大学院 入学式
大田原キャンパス入学式
学部・大学院新入生概要
9 成田キャンパスレポート
10-11 新任のごあいさつ
新井田 孝裕　副学長・保健医療学部長
丸山 仁司　副大学院長
大和田 倫孝　国際医療福祉大学病院 病院長
須田 康文　国際医療福祉大学塩谷病院 病院長
北村 聖　医学部長
丸木 一成　医療福祉学部長
大池 美也子　福岡看護学部長
吉田 素文　副医学部長・医学科長
爲数 哲司　福岡保健医療学部 言語聴覚学科長
12-13 海外保健福祉事情レポート
13 第7回高校生作文コンテスト ベトナム医療福祉体験ツアー 報告
ビンメック国際病院への医療協力
14-18 特集3 平成28年度 学部・大学院 学位記授与式
大田原キャンパス学位記授与式
学部卒業生・大学院修了生概要
卒業生総代／学長賞受賞者／大学院長賞受賞者
19 小田原キャンパスレポート
20-21 福岡キャンパスレポート／大川キャンパスレポート
22 大学院キャンパスレポート
塩谷看護専門学校キャンパスレポート
23 生涯学修のご案内

トピックス

東日本大震災支援 街頭募金活動報告

三月一一日、大田原キャンパスのボランティアグループが、市内のデパート、スーパー、ホームセンターの六か所で募金活動を行い、被災地の子どもたちを二〇年間にわたって支援する「公益社団法人ハタチ基金」に二二万七一七四円を送金しました。義援金をお寄せいただいた大田原市民の皆様に感謝申し上げます。

（IUHWボランティアセンター　福田規予子）

式辞（要約）
国際医療福祉大学 学長 大友 邦

新入生とご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。また、多くのご来賓の方々にご臨席いただき、誠にありがとうございます。

本日、二〇名の留学生を含めた一四〇名が、医学部の栄えある第一期生として集まっています。全国の医学部の国費留学生は全学年で十数名というなか、完成年次における本学のフルスカラシップ留学生は一二〇名になります。留学生の皆さんは、卒業後、母国の医療を担うリーダーとして活躍されることが期待されています。日本人学生にとって、文化や社会的背景、医療事情などが異なる国の方々と六年間をともにすることは、多様な価値観を受け入れる柔軟な国際感覚を養うまたとない機会になるはずです。

この医学部では、「チーム医療・チームケア」に貢献できる高い総合診療能力と国際性を兼ね備えた医師を育成いたします。まず、高い総合診療能力を養うために、基礎と臨床を有機的に結合させた統合型カリキュラムを導入するとともに、五千㎡を超える世界最大級の医学教育シミュレーションセンターを設置し、技術や手技を納得するまで学ぶことができる環境を整えます。また、四年次から九〇週の診療参加型臨床実習を実施します。国内の医学部の平均実習期間は五四週、アメリカでの標準も七二週であり、本学の教育が世界水準を上回っていることがおわかりになると思います。これらの臨床実習は、四つの附属病院を中心に、臨床医学研究センターという位置づけで大学と密接に連携しているグループ内の施設で実施します。世界的なハブ病院をめざして二〇二〇年に開設する国際医療福祉大学成田病院を合わせると、附属病院は二千床を超え、臨床医学研究センターは四〇にのぼります。また、カリキュラムを着実に遂行していくため、専任スタッフ二五名を擁する医学教育統括センターを設置しました。国内の医学部の医学教育の専任教員は数名に限られており、極めて手厚い布陣になっています。

次に、国際性を養うために、授業やカンファレンスで英語を活用してまいります。そのため、三〇名以上の外国人教員と、海外での診療、教育経験の豊富な三〇〇名以上の日本人教員が着任しました。さらに、六年次に四週間から四か月の海外臨床実習を必修としました。本学は医療福祉の分野ですでに約二〇の国・地域で三四の大学・病院と協力関係を構築しています。これらの国際的ネットワークを通じて、さまざまな国の医療現場を在学中に体験することで、国際的な広い視野を持った医師をめざしてください。

祝辞（要約）
内閣府特命担当大臣（地方創生、規制改革） 山本 幸三様

国家戦略特区の担当大臣としてごあいさつ申し上げます。三八年ぶりの医学部の新設が国家戦略特区で実現いたしました。国家戦略特区の目的は、岩盤規制改革により、構造改革を推進し、産業の国際競争力の強化、国際的な経済活動の拠点の形成を図るものであります。アベノミクス第三の矢「成長戦略」の柱として、多くの分野で規制改革が実現され、この医学部の新設はその代表格であります。成田市の熱意ある提案を受け、国際医療福祉大学と一体となって進めた結果、世界最高水準の医療を提供できる国際医療拠点、医療産業の集積や医療ツーリズムの拡大などが期待され認定されました。

イギリスの評価機関による「世界の医学系大学トップ五〇」では、日本は東京大学が二六位にランクインしているだけで、世界的に見れば、日本の医学教育は必ずしも十分でないというのが現状であります。この医学部の新設はほかの大学に大きな刺激を与え、医学教育の競争力の向上につながると確信しております。

祝辞（要約）
千葉県知事 森田 健作様

本日、栄えある第一期生として入学を迎えられた皆様とご家族の方々に心からお祝い申し上げます。

千葉県では今後、高齢化の急速な進展が見込まれており、医療に対する県民の期待がますます高まっております。国内外の医療需要に対応した国際的な医学部として、この医学部が本県に開設されたことはまことに時宜を得たものであり、本県も支援させていただいたところであります。

今後、この千葉県から、世界水準の教育を受け、高い総合診療能力を身につけた人材が多数輩出されることは、本県の地域医療にとって心強い限りであります。新入生の皆さんは、勉学に励まれ、人間性豊かな優れた医師として、大いに活躍していただきたいと思っております。

県といたしましては、引き続き、医師などの養成の支援や働きやすい環境作りなど、さまざまな取り組みを展開して医療の充実を図り、次世代に向け、光り輝く日本一の千葉県をめざして全力で取り組んでまいります。

祝辞（要約）
ベトナム保健大臣 グエン・ティ・キム・ティエン様

六人のベトナム人学生を奨学生として迎え入れていただいた国際医療福祉大学の温かい支援に心から感謝いたします。今年度は一四〇名の学生のうち、ベトナムをはじめ、ミャンマー、モンゴル、インドネシア、カンボジア、ラオスから二〇名の優秀な留学生に六年間のフルスカラシップが授与されました。このフルスカラシップの学生たちは国際医療福祉大学医学部を卒業した後、国際的に活躍する医療従事者になるとともに、自国での医療システムにとっても重要な存在になるでしょう。

国際医療福祉大学医学部が日本国内のみならず国際的にも高い評価を得る大学になることを願っております。

祝辞（要約）
参議院議員 自由民主党 国際保健医療戦略特命委員長 武見 敬三様

我が国は、国際社会において成熟した国家としての役割が求められており、保健・医療の分野は特に期待されています。この医学部は一四〇名のうち二〇名の留学生を受け入れており、今後アジアで必要される多くの医師を育成する拠点が成田市に生まれたと思います。医学部には、教育・研究・臨床の役割が求められますが、我が国の既存の医学部は、教育については国内志向でありました。理学部や工学部は何千名もの国費留学生を受け入れている一方、医学部は全国でわずか一三名であることが、それを物語っています。この医学部が医学教育の国際化を進めることは、本学の医学教育に大きなインパクトを与えることになります。

祝辞（要約）
日本医師会長 横倉 義武様

社会がどんなに変化しても、常に病気の方がいる以上、医療は必要とされ続け、医師が重要な役割を果たしていくことは変わりありません。日本近代医学の父と言われたオランダ人医師のポンペは、「医師はみずからの天職をよく承知していなければならない。ひとたびこの職を選んだ以上は、もはや医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶべきである」と書き残しました。医師の本質を突いた名言であります。学生の皆さんには、知識や技術だけでなく、生ある者への慈愛と他者への思いやりの精神、すなわち高度な医療倫理を兼ね備えた医師をめざしていくことを期待しております。

School of Medicine Opening and Entrance Ceremony

特集1 医学部 入学式・開設記念式典

祝辞（要約） 日本医学会長 高久 史麿様

私は八年間ほど国際医療福祉大学の評議員会議長を務めさせていただきました。本日ここに新しい医学部の開設を実現した高木理事長の熱意と実行力に、心から敬意を表したいと思います。

私は四五年前、自治医科大学の最初の教員として参加しました。教務委員長としてカリキュラムを作りましたが、卒業生は地元に帰って地域医療の第一線に立つことになっており、臨床実習に多くの時間を当てました。一期生の国家試験合格率が九九%となったときの喜びは今も心に深く刻まれております。その後、困難もありましたが、一期生は現在、地域医療のさまざまな場面で活躍しています。自治医科大学が一定の評価を得ているのは、こうした一期生の活躍によるところが大きいと思っております。ここにいらっしゃる一期生の皆さんは、医学部の新しい歴史を作る気概をもって、明日から励んでいただきたいと思います。

祝辞（要約） 成田市長 小泉 一成様

医学部としては三八年ぶり、首都圏では四三年ぶりの医学部の開設という歴史的な出来事が成田市で実現し、市長としてこの場に立たせていただくことに感激しております。

ここで学ぶ六年間は皆様の人生にとってかけがえのない時間になることは言うまでもありません。思い描く夢の実現に向け、充実した学生生活を過ごしていただけるよう、市としてバックアップしてまいります。昨年の成田看護学部、成田保健医療学部に続く医学部の開設は当市の街づくりにも意義深いものであり、二〇二〇年には国際医療福祉大学成田病院が開設され、国際医療拠点として大きく発展されることを期待しております。

新入生誓いのことば 上田 諒

初めは、上級生がいないことや英語中心の授業に対する漠然とした不安がありましたが、これまでに約二万人の専門職を輩出していること、全国に多くの附属・関連施設があること、医学教育のエキスパートが揃っていることなどを知るにつれ、不安が払拭されていきました。古い伝統にとらわれたり、変化を恐れたりすることなく、日本の医学部の新しい礎となるべく、決意を新たにしています。

小学五年生のときに、生まれつき心臓を患っている子どもたちと触れ合うボランティア活動で、父とともにモンゴルを訪れました。小さな指先に酸素飽和度測定器をあてることが私の役割でした。医学知識のない私にも、それが異常な数値であることがわかり、将来は発展途上国で医師として活躍したいという思いを強くしました。

「『共に生きる社会』の実現」という本学の建学の精神を忘れず、病気や障害を持った人に対する慈しみの心と高い総合診療能力を兼ね備えた医師をめざしてまいります。

留学生誓いのことば タルガト ティレウベク

国立モンゴル医科大学で一年間勉強し、昨年一一月に来日して、日本語の勉強を始めました。私が今日お伝えしたいのは、「人生は素晴らしい」ということです。

昨年の今頃、モンゴルで日本人研究者のセミナーに参加しました。そのときは日本語が分からなかったので、日本語で質問している学生たちをうらやましいと思い、日本で学びたいという気持ちが生まれました。しかし、日本の医学部で学ぶという夢がこんなに早く実現するとは想像もしていませんでした。私を推薦してくれたモンゴル医科大学に感謝しています。また、フルスカラシップで私を受け入れてくださった国際医療福祉大学にも心から感謝いたします。

一期生として、仲間や先生方と歴史を作っていけることは大変光栄なことだと思っています。アジア各国の留学生と日本の学生がお互いに学び合うことができるこれまでにない医学部から、アジアの医療に貢献し、アジアのリーダーとして活躍できる医師がたくさん生まれると思っています。

新入生 都道府県別・国別人数

■出身高校の所在地

北海道	4名
宮城県	1名
秋田県	1名
山形県	1名
福島県	1名
茨城県	5名
群馬県	2名
埼玉県	9名
千葉県	14名
東京都	38名
神奈川県	7名
富山県	1名
長野県	1名
愛知県	5名
京都府	1名
大阪府	5名
奈良県	3名
岡山県	1名
広島県	3名
香川県	1名
愛媛県	2名
福岡県	4名
長崎県	1名
熊本県	2名
鹿児島県	4名
カナダ	1名
アメリカ	2名

■留学生の出身国

インドネシア	2名
カンボジア	1名
ベトナム	6名
ミャンマー	3名
モンゴル	2名
韓国	3名
台湾	1名
中国	1名
アメリカ	1名

医学部 開設祝賀会

入学式・開設記念式典の終了後、会場を成田キャンパス医学部棟の学生ラウンジに移して、開設祝賀会ならびに内覧会を開催した。

▼▼▼

あいさつ（要約） 国際医療福祉大学 総長 矢﨑 義雄

入学式・開設記念式典に続きまして、この祝賀会ならびに内覧会に数多くのご来賓の皆様にお越しいただき、誠にありがとうございます。改めて、厚く御礼申し上げます。

開設されました医学部では、従来とはまったく異なる、革新的な医学教育を行う予定であります。それに加えまして、たとえば、本日、解剖実習室をご覧いただければ、本学が教育環境の整備にも万全を期してきたことがお分かりいただけると思います。つまり、新しい医学部では、医学教育のソフトとハードの両面で、世界水準の先を行く構想のもとで準備してまいりました。本日、そこに記念すべき第一期生が入学してまいりましたことは、本学にとりまして、この上ない大きな喜びでございます。

最後に、皆様方におかれましては、これからも一層の厚いご支援をいただけますよう、心からお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

▼▼▼

祝辞（要約） 千葉大学長 徳久 剛史様

本日は医学部開設、本当におめでとうございます。

高木理事長の一〇年以上の努力が実ったことに、心からお喜びを申し上げます。

以前、成田に医学部の話が持ち上がった時に高木理事長にお会いして、新しい医学教育に対する熱い想いやその人柄に惚れ込み、医学部新設は実現するぞ、と思ったことが思い出されます。新任の教授選考の際に一時間の英語の講義を課したこと、入試では全受験生に一時間もの面接を行ったことなどを聞いて、改めて感心しました。新設医学部が世界水準の医師を養成するための地盤は十分だと思います。一方、地域医療にも熱心で、今日も二〇二〇年に成田市に新設される附属病院を千葉県の基幹病院にすると明確に言っていただきました。千葉県は医師数が全国ワースト三だという実情もあるので、ほっとしました。今後は千葉大学も一緒に、教育研究や人事交流などで協力しながら、世界に向けた国際的な医療人材の育成を進めていきたいと思っています。

▼▼▼

祝辞（要約） ラオス人民民主共和国 保健大臣 シアヴォン ブンコーン閣下

桜の花が咲くこの美しい季節に開催された、記念すべき医学部の入学式・開設記念式典にお招きいただき、高木邦格理事長に心から感謝申し上げます。また、本日、このような素晴らしい先進的な医学部が開設されたことに、心からお祝い申し上げます。

私は、この新しい医学部がめざしている国際性というものは、将来、日本だけにとどまらず、必ずや国際社会にとっても、非常に大きな意味を持つものになると確信しております。また、この医学部の開設を大きな契機として、国際医療福祉大学とラオスの保健科学大学ならびにラオス保健省との協力関係がさらに発展していくことについても、大きな期待を寄せているところであります。

特集2 入学式

平成二九年度 学部入学式並びに大学院入学式

●那須アスリーナの体育館にて

四月三日、大田原キャンパスにおいて「平成二九年度学部入学式並びに大学院入学式」を行った。

アカペラサークルによる校歌『未来（あす）への扉』の斉唱に続き、大友邦学長、天野隆弘大学院長が式辞を述べた。続いて、来賓を代表して、大田原市長・津久井富雄様、栃木県知事代理・保健福祉部次長・森澤隆様から祝辞をいただいた。

これを受けて、学部新入生を代表して小室萌乃さん（放射線・情報科学科）と大学院新入生を代表して佐藤司さん（医療福祉学研究科 博士課程）が「新入生誓いのことば」を述べた。

最後に、大友学長から壇上の教員が一人ひとり紹介され、式は滞りなく終了した。その後は、それぞれ、「来賓懇親会並びに大学院祝賀会」、「学科別懇談会」、「大学院オリエンテーション」に臨んだ。

（大田原キャンパス 広報室　金井雅之）

●あちこちで見られた親子での記念撮影

●会場前では新しい仲間を求めて、部・サークルの勧誘も

●新入生誓いの言葉を述べる小室萌乃さん（左）と佐藤司さん（右）

平成二九年度 学部新入生・大学院新入生概要

■学部 合計　**1954名**

- **保健医療学部 合計　535名**
  - 看護学科　110名
  - 理学療法学科　97名
  - 作業療法学科　78名
  - 言語聴覚学科　85名
  - 視機能療法学科　45名
  - 放射線・情報科学科　120名
- **医療福祉学部 合計　138名**
  - 医療福祉・マネジメント学科　138名
- **薬学部 合計　194名**
  - 薬学科　194名
- **医学部 合計　140名**
  - 医学科　140名
- **成田看護学部 合計　107名**
  - 看護学科　107名
- **成田保健医療学部 合計　254名**
  - 理学療法学科　85名
  - 作業療法学科　42名
  - 言語聴覚学科　43名
  - 医学検査学科　84名
- **小田原保健医療学部 合計　215名**
  - 看護学科　86名
  - 理学療法学科　89名
  - 作業療法学科　40名
- **福岡看護学部 合計　106名**
  - 看護学科　106名
- **福岡保健医療学部 合計　265名**
  - 理学療法学科　93名
  - 作業療法学科　42名
  - 言語聴覚学科　43名
  - 医学検査学科　87名

■大学院 合計　**299名**

修士課程 合計　227名
- 医療福祉学研究科　226名
  - 保健医療学専攻　145名
  - 医療福祉経営専攻　56名
  - 臨床心理学専攻　25名
- 薬科学研究科　1名
  - 生命薬科学専攻　1名

博士課程 合計　72名
- 医療福祉学研究科　68名
  - 保健医療学専攻　68名
- 薬学研究科　4名
  - 医療・生命薬学専攻　4名

その他のキャンパス・グループ施設

■入学式・開設記念式典

四月二日　医学部

■入学式

四月四日　成田キャンパス
四月五日　小田原キャンパス
四月六日　福岡キャンパス・大川キャンパス
四月七日　塩谷看護専門学校

■辞令交付式・入社式

三月三一日・四月一日　栃木・東京・千葉・小田原・熱海地区
四月六日　九州地区

キャンパスレポート ●成田

第7回 キャンパスレポート 成田

成田キャンパス 第二回入学式

四月四日、成田キャンパスにおいて「平成二九年度 成田看護学部・成田保健医療学部入学式」を挙行した。コーラス部と有志による校歌『未来（あす）への扉』の斉唱に続き、大友邦学長が式辞を述べた。続いて、来賓を代表し、成田市長・小泉一成様から祝辞をいただき、その後、ご臨席いただいた来賓の方々を紹介した。

これを受けて、二学部五学科を代表して、保科美月さんが「新入生誓いのことば」を述べ、最後に、大友学長が、登壇されている医学部を含めた三学部六学科の役職者を紹介して、式典は終了した。

式辞（要約）
学長　大友　邦

新入生の皆様はこれからの大学生活に夢を膨らませていることと思います。ぜひ密度の濃い時間を過ごし、長く続けていく職業の基礎を身につけるとともに、まさに生涯にわたっての財産となる人的なネットワークを構築することを期待しております。そのために我々スタッフ一同は最大限努力し、ご支援いたします。

祝辞（要約）
成田市長　小泉一成様

昨年四月に、成田看護学部、成田保健医療学部が開学し、皆様の先輩である第一期生が成田市に来ていただいたことで、地域に新たな賑わいが生まれ、「大学ができてよかった」という声が上がっております。地域住民の方々も、皆様を温かくお迎えしておられるところでありますので、皆様もぜひ、勉学のかたわら、地域のイベントやお祭りなどにも参加していただき、成田の魅力を実感していただけると幸いです。

●小泉市長による祝辞

新入生誓いのことば（要約）
理学療法学科　保科　美月
（千葉県立佐原高校出身）

伝統的な姿と国際的な姿をあわせ持つ、この成田の地で私たちの将来につながる学びができることに喜びと期待を感じています。大学での四年間は、私たちが将来就く職業について真剣に考え、同時に社会人としての基礎を培う大切な時間となります。一歩一歩着実に努力を重ね、国際医療福祉大学の学生として有意義な四年間を過ごせるように勉学に励む所存です。

●保科さんによる新入生誓いの言葉

医学部WB棟 内覧会

四月二日、医学部開設記念式典を前に、医学部I期棟（WB棟）内覧会を実施した。

既存学部の建物（EA・EB棟）は、大地（地元成田の地）に根を張り、地域の医療をしっかりと支え、空へ向けて大きくまっすぐ成長していく森をイメージして、柱が樹の幹を表している。それに対して、医学部の建物は、医学・医療の新しい世界へ船出していく国際的に開かれた海をイメージして、廊下の床が海を表し、医学・医療の架け橋となっている。

全館に張り巡らされたWi-Fiにより、手元のタブレット型PCなどで、電子教科書や動画などの事前学修資料を館内どこからでも見ることができる。電子教科書や資料の一部は学外からも参照可能である。講義室ではAVシステムにより、大型モニターや手元のタブレットなどで、進行中の講義の資料を参照することができる。また、講義の出席管理やミニテストなども電子的手段で行う。さらに、講義や実習の様子を録画して、リアルタイムで参照したり、あとからVODシステムを使ってどこからでも参照したりできるので、講義の復習や実習のデブリーフィングなどに活用できる。これらの学修の状況をシステムに蓄積するので（ポートフォリオシステム）、学生が自分の進捗を確認することができる。その他、3D解剖台やバーチャルスライドシステム、シナリオを自由に設定できる高機能シミュレータ、デジタルサイネージ、模擬診察室モニタリングシステムなどの学修システムを導入する。教材開発・撮影のための収録スタジオも設けている。

これらの情報は一元的に集約し、医学教育統括センターが学生一人ひとりに丁寧に対応するために活用する。

翌日には、成田キャンパス教職員対象の展示会が開催され、最先端の機器に触れる体験をした。新入生一四〇名とともに、成田キャンパスの新たな一ページが刻まれた歴史的な日となったことは間違いない。

（広報　管野利行）

●解剖学実習室の様子

●SECTRAの様子

●心臓病シミュレータ“イチロー”

●模擬診察室全22室の様子

新任のごあいさつ

国際医療福祉大学
副学長・保健医療学部長
新井田 孝裕

北里大学卒、医学博士。前北里大学医療衛生学部助教授。本学保健医療学部視機能療法学科長、全国視能訓練士学校協会会長。日本弱視斜視学会理事。

キャンパス間の連携と学際的研究を推進

このたび、副学長・保健医療学部長を拝命いたしました。保健医療学部視機能療法学科長として赴任して一六年目を迎えます。広大な大田原キャンパスは豊かな自然に囲まれ、医療福祉関連の施設が学内に数多く存在し、附属病院へのアクセスも良く、恵まれた環境にあります。

しかし、一八歳人口の減少は大都市圏に比べ顕著であり、大学を取り巻く状況は今後厳しさを増していくことが予想されます。このため、キャンパス内における教職員間、学科間の緊密な連携に加えて、他キャンパス、関連実習施設との情報共有化を推進し、学生が安心して学べる教育環境のより一層の充実に努めてまいります。さらに、成田・小田原キャンパスとの連携教育の基盤整備、グローバル化や地域・社会貢献の充実に加えて、他大学との共同研究や領域横断的な学際的研究の推進を通じて教育研究力の向上に努めてまいりますので、皆様方のご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学大学院
副大学院長
丸山 仁司

理学療法士、工学修士、医学博士。初代理学療法学科長。専門はリハビリテーションに基礎を置いた運動生理学、運動学。第一〇回アジア理学療法学会会長、元日本理学療法士協会副会長。

より高度な専門教育と国際交流をめざして

このたび、副大学院長を拝命いたしました。一九九五年、大田原キャンパス開設時に理学療法学科長として赴任後、二二年を経過いたしました。その間、学部卒の学生が二万人を超え、医療福祉分野における本学の役割が大変重要となってきています。本学は高度の医療福祉専門職の養成をめざしてきましたが、今後はより高度な専門職の養成、各専門教育の教員の養成、研究者の養成などが必要となっています。そのためには大学院教育が重要な位置づけとなります。また、卒業生のみならず、各職種の生涯学修の拠点として、本大学および大学院は重要な役割を果たす必要があります。

また、本学の理念に「国際性を目指した大学」があります。多くの留学生を受け入れており、国際交流を一層盛んにすることも重要な使命だと思います。

大学院の教育、国際交流などに尽力していきたいと思います。皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

国際医療福祉大学病院
病院長
大和田 倫孝

山形大学卒、医学博士。前自治医科大学産婦人科准教授、日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医・指導医、日本婦人科腫瘍学会認定専門医・指導医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医。

本学の医学教育の本院としての使命

平成二〇年に産婦人科部長として入職し、二五年より副院長として、当院の発展をじかに感じてまいりました。当院は大学の附属病院として発展し、栃木県北地域の二次救急医療機関としての使命も担い、現在三五三床を擁し、職員は千人を超えております。四七の専門診療科、一五のセンターを形成し、複数の専門家が十分な協議のもとでチーム医療を実施しております。ロボット手術などの高度医療から地域医療機関と連携しての在宅医療まで、そして、乳幼児から高齢者までの幅広いニーズに応える医療とケアを提供しております。

今年度は医学部が新設され、当院が医学教育の本院となります。診療に加えて、教育・研究の比重が増す状況下での病院長就任には、大きなやりがいを感じております。患者様、職員、そして学生の満足感、達成感を少しでも上げるべく努力したいと存じますので、これまで以上のご支援、ご協力をお願いいたします。

国際医療福祉大学病院
病院長
須田 康文

慶應義塾大学卒、医学博士。慶應義塾大学医学部整形外科医局長。日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本体育協会公認スポーツドクター、日本靴医学会理事（第二七回日本靴医学会学術集会会長、日本足の外科学会理事（第四〇回日本足の外科学会学術集会会長）。

新たに栃木県の災害拠点病院に指定

このたび、塩谷病院病院長に就任いたしました。塩谷病院は急性期病床に加え、回復期リハビリテーション病床、療養病床を備え、塩谷郡を中心とする地域の方々に安心した生活を送っていただけるよう良質な医療の提供を心掛けております。四月からは栃木県の災害拠点病院にも指定され、ますます地域における基幹病院としての重要度が高まっております。

このような環境の中、地域医療の充実をより図るため、近隣の国際医療福祉大学病院をはじめとする関連施設とも密に連携をとりながら、職員一同良好なチームワークのもと、常に患者さん目線に立って鋭意努力してまいる所存です。本学に医学部が開設されたこともあり、附属病院の一つとしてこれまで以上に学生教育にも力を入れ、将来の人材育成にも貢献したいと考えております。超高齢社会における地域医療のモデル型病院をめざします。今後とも皆様方のご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

新任のごあいさつ

国際医療福祉大学
医学部長
北村 聖

東京大学卒、同大医学教育国際研究センター教授、附属病院総合研修センター長、日本医学教育学会副理事長を歴任。医学雑誌編集者会議委員長、医学教育評価機構理事。

先進的な教育法で医師を養成

新しく成田に開設した医学部の学部長を拝命しました。わが医学部は建学の精神である「共に生きる社会の実現」と、国際的に活躍できる医師の育成を目的としています。そのため、学修目標を明確にし、それを基盤とした教育を行います。従来の学問体系中心と違い、プロフェッショナリズムやコミュニケーション能力の涵養なども重要な学修目標と位置づけています。また、低学年では英語で講義を行い、言語だけでなく国際的なマインドを持った学生を育成します。我が国では先進的な教育法で医師を育てることに大きな期待と熱い気持ちを持って取り組んでいきます。皆様のご支援とご鞭撻を期待しております。

国際医療福祉大学
医療福祉学部長
丸木 一成

名古屋大学教育学部卒。読売新聞社医療情報部長、生活情報部長などを歴任。医療福祉学部長・医療福祉・マネジメント学科長などを経て、二〇一七年四月より現職。常務理事。

医療福祉の現場のリーダーを育成

医療福祉学部長を拝命しました。二〇〇九年、医療福祉・マネジメント学科の初代学科長以来ですが、学部を取り巻く厳しい環境に身の引き締まる思いです。本学部は、超高齢時代のニーズに応え、「医療」も「福祉」も「マネジメント」も分かる専門職を育成してきました。この二〇年間の卒業生は三七〇六人。社会福祉、精神保健福祉、介護福祉の専門職として、経営学、医療情報などに加え、臨床実習も行い、医療福祉の実際を学んだ専門職として、病院や企業など幅広い分野で活躍しています。本学ならではの他学科の学生との関連職種連携教育を通じて、利用者から選ばれ、医療福祉の現場で中心となって活躍できる人たちの育成に努力します。

国際医療福祉大学
福岡看護学部長
大池 美也子

九州大学医学部保健学科看護学専攻長、医療系統合教育センター長などを歴任。元九州大学大学院教授。九州大学病院、宗像医師会病院にて臨床経験。福岡教育大学大学院教育学研究科修了。

実践の科学としての看護教育をめざす

このたび、福岡キャンパスの福岡看護学部長に就任いたしました。臨床では外科看護を、教育研究では看護教育を中心に取り組んでまいりました。今日の社会は、生活する人々の理解を基盤とした質の高い実践と責任が医療職に期待されており、個別性と普遍性をそなえた看護学を「実践の科学」として社会に役立てていきたいと考えております。

臨床や教育研究に関することれまでの経験をフルに活用しながら、本学がめざしている国際性と「チーム医療・チームケア」をさらに推進していくとともに、教員ともども、将来の医療福祉に貢献できる人材の育成に尽力してまいります。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

国際医療福祉大学
副医学部長・医学科長
吉田 素文

九州大学卒。同大大学院医学研究院医学教育学講座教授、附属図書館副館長。学外では、第一一一回医師国家試験委員会委員長、共用試験医学系OSCE実施小委員会副委員長を歴任。

学生とともに今までにない医学部を創る

この一年はチーム一丸となって、設置準備、留学生の選抜、日本語別科の教育運営に取り組み、医学部開設にあたり副医学部長兼医学科長を拝命しました。

新設する医学部は、一学年二〇名の留学生、英語による授業、最新の情報通信・映像システムを備える広大なシミュレーションセンター、四週間以上の海外実習を含む九〇週の臨床実習、低年次からの医療プロフェッショナリズム教育など、国内初の、あるいは極めてまれな特徴が数多く盛り込まれています。こうした教育プログラムに、新入生がどのように取り組み、成長し、卒業して、国際的にどのような活躍を見せてくれるのか、今から楽しみは尽きません。

国際医療福祉大学
福岡保健医療学部
言語聴覚学科長
爲数 哲司

国立身体障害者リハビリテーション学院卒、西南学院大学大学院修了、博士（人間科学）。日本音声言語医学会評議員、日本高次脳機能障害学会代議員。

挑戦できる言語聴覚士を育てる

二〇〇七年に大川キャンパスに赴任し一年目を迎え、このたび、福岡保健医療学部言語聴覚学科長を拝命いたしました。

これまで人間性に富み、常に学ぶ姿勢をもつ言語聴覚士を育てるべく努めてまいりました。その結果、多くの卒業生は就職先での評判もよく、大いにがんばっております。さらに、最近は、レベルの高い学会で発表したり、県士会などの役員として活躍したりする者も増えてきており、大変喜ばしく思っております。これからもさまざまな事柄にエネルギッシュに挑戦するバイタリティあふれる言語聴覚士を育てられるよう、心を新たにがんばってまいる所存です。

海外保健福祉事情

今年も春休みを利用して、冬季海外保健福祉事情を実施し、二か国・三グループに学生三九人、教員四人が参加し、現地の医療福祉事情や文化に触れる体験をした。

（国際部　藤原志保）

オーストラリア TAFEクイーンズランド

学生たちのコミュニケーション能力に驚く

保健医療学部 看護学科
教授　鈴木由美

出発までカウントダウンで不安が募ったのが嘘のように、非常に楽しい二週間であった。学生一三人は旅慣れている印象を受け、機内や空港でさまざまなハプニングがあったものの、英語レッスンをとおして他国の学生たちと友好関係を築いており、社交的な一面を覗かせた。また、医療施設や遠隔地医療のためのヘリポート、高齢者施設を見学し、ジャパンデーなどで書道をとおしてコミュニケーションを図るなど、将来の医療関係者として、体験から学ぶところが大きかったと思われる。

●ケアフライトの見学

共通言語は笑顔とジェスチャー

小田原保健医療学部 看護学科
二年　青木久乃

二週間ホームステイをしながら、オーストラリアの医療福祉事情を学んだ。私の目標は極力日本語を使わず、英語で話すよう意識して過ごすことだった。しかし、いろいろな国の人たちと会話を交わすなかで、時折、「通じていないかも？」、「この言い回しで合っているかな？」と感じたときは、困った顔を見せないで、笑ってジェスチャーを加えることでコミュニケーションをとった。そうすることで、実際にたくさんの友だちができて、充実した時間を過ごすことができた。

●TAFEゴールドコーストで出会った仲間

オーストラリア グリフィス大学

この体験をもとに国際的な活躍を期待

保健医療学部 視機能療法学科
准教授　伊藤美沙絵

一月二八日から二週間、学生八人（大田原五人、小田原三人）とともに参加した。オーストラリアの医療福祉を英語で学ぶ語学研修のほか、隣接するゴールドコースト病院や老年施設の見学で構成されており、いずれも日本とは異なることが多くて驚かされる一方、自国の良い点にも気づかされる有意義な時間であった。また、消極的であった英語での会話は、学生交流での「おしゃべり」によって積極的なものへと変化したように感じられた。このプログラムを経験した学生には、ぜひグローバルな考え方やコミュニケーション力を磨き、将来は国内だけではなく国際的な活躍も期待したい。

●エイジ・ケア・センターにて

医療福祉の充実ぶりに驚き、ほかの国にも興味が広がった

保健医療学部 言語聴覚学科
二年　石井茜音

海外は初めてで、言葉が心配だったが、滞在中に会話や聞き取りが上達していくのが感じられて、話すことが楽しくなった。ホストファミリーは家族のように接してくださった。オーストラリアは多くの国の人が住んでいるので、料理や習慣がさまざまであることがわかった。

医療英語やオーストラリアの医療を重点的に勉強し、それを踏まえて医療施設を見学した。これまで日本の医療は進んでいると考えていたが、オーストラリアは技術が進歩しており、医療従事者への支援も厚く、医療が充実していることを知った。この経験からオーストラリアだけではなく、多くの国の医療福祉事情を知りたいと感じた。ここで得た知識をもとに医療従事者として勉学に熱心に取り組みたい。

●カランビン・ワイルドライフ・サンクチュアリにて

シンガポール ナンヤンポリテクニック

他国を知ってこそ気づく長所と短所 貴重な体験を積んだ学生たち

薬学科 薬学科
教授　角南明彦

大田原と小田原から、学生一八人と教員二人が参加した。今回の研修では、初めてホームステイが行われ、一一人が参加した。ホストファミリーと過ごした貴重な体験は彼らにとって異文化を知るうえで一生の宝になったに違いない。

講義や施設の見学を通じて、医療制度や施設の長所短所も含めてシンガポール医療の一端を実際に見ることができたことは、私たちにとって大変貴重であった。

今回の研修が学生にとって今後の成長の大きな糧となることを信じている。

●ナンヤン・ポリテクニックにて

キャンパス間の交流も経験した収穫の多い一〇日間

小田原保健医療学部 看護学科
二年　角田夏香

シンガポールでは、現地の医療制度についての講義を受けたことに加えて、大学や総合病院、コミュニティサービスセンターなどさまざまな施設を見学することができた。病院では、日本のＩＣＵとは異なり、患者さん一人に対して看護師一人という手厚いケアが行われていたことが印象に残った。

現地の方々とはもちろんだが、普段は接する機会のないほかのキャンパスの学生や先生ともコミュニケーションがとれて、日本では味わうことのできない有意義な一〇日間を過ごすことができた。

●クー・テクバ病院のICU室

★第七回 高校生作文コンテスト

ベトナム医療福祉体験ツアー 報告

三月二五日から三〇日、「第七回高校生作文コンテスト」で最優秀賞、優秀賞、佳作を受賞した五人がベトナム医療福祉体験ツアーに参加した。

一日目の郊外視察では、メコンデルタクルーズのあと、ベトナム戦争の施設を見学した。二日目は本学の提携医療機関であるチョーライ病院を訪問し、ベトナムの医療・病院事情などについてお話を伺い、院内施設の見学を行った。午後は在ホーチミン日本国領事館とＪＩＣＡ南部事務所を表敬訪問して、現在ベトナム国内で進められている日本のＯＤＡ活動の内容やその意義についてお話を伺った。三日目は再度チョーライ病院を訪問して入院病棟や臨床検査室などを見学した。午後は身体障害児童施設を訪問して、身体障害児や貧困児童に対する取り組みについてお話を伺い、施設を見学した。

最終日はホーチミン市内の観光を楽しんだ後、ツアーを締め括る「勉強会＆報告会」を行った。チョーライ病院のスタッフも参加して、「医療の多様性とそれぞれの国の文化や国民性を尊重した医療の重要性」などについて全員で議論した。

（大学院 准教授　岡村世里奈）

●チョーライ病院のヒエン看護師から説明を受ける参加者

ビンメック国際病院への医療協力

ベトナム最大手の不動産会社であるビングループが経営母体のビンメック国際病院との間で、年初に包括契約を締結した。同社では二〇二〇年までに一〇の医療施設をベトナム国内に整備する計画を持っているが、これらの運営に携わる医療人材の育成が喫緊の課題となっている。今回の包括契約は、同院の医療サービス及び経営の質を向上させるため、本学が有する知識・技能・経験を提供し、同院の人材育成に寄与することが目的である。

第一弾の取り組みとして、二月中旬から三月下旬にかけ計六週間、天野隆弘大学院長・赤居正美副大学院長以下、本学の医師・看護師・技師ほか総勢二〇名の調査団を派遣し、同院の経営陣・院長・各分野責任者との間で医療・病院運営に係る広範な課題認識と改善の方策に関して活発な意見交換を行った。今回の結果を踏まえ、今後同院の医療サービス向上のための本学によるさまざまな分野での医療協力が推進されることが期待される。

（国際部　小川卓也）

●ビンメックのスタッフと意見交換する天野大学院長

特集3 式辞・祝辞

平成二八年度 学部・大学院 学位記授与式

三月八日、明るい陽ざしに恵まれた大田原キャンパスにおいて、「平成二八年度学位記授与式」を挙行した。

校歌斉唱に続き、大友邦学長から学部卒業生総代の山名千尋さん（放射線・情報科学科）へ、天野隆弘大学院長から修了生代表の髙野与志哉さん（博士課程・診療情報管理・分析学分野）へ、それぞれ学位記が手渡された。さらに、各学科の学業優秀者に「学長賞」が、博士課程・修士課程の研究業績優秀者に「大学院長賞」が授与された。

大友学長、天野大学院長の式辞に続き、来賓の大田原市長・津久井富雄様、栃木県知事代理・保健福祉部次長森澤隆様から祝辞をいただいた。総代・代表による「卒業生謝辞」、「修了生謝辞」に続き、酒井あかねさん（視機能療法学科）の「卒業記念品贈呈」をもって閉式。その後はそれぞれ「学科別（大学院）学位記伝達式」に臨んだ。

（大田原キャンパス 広報室　金井雅之）

●合唱部のリードにより、校歌「未来（あす）への扉」を斉唱

学長式辞（要約）　大友 邦

周囲から学ぶ姿勢を大切に

皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日までご支援されてこられたご両親、ご家族の皆様におかれましても、お喜びのことと お祝い申し上げます。

卒業生の皆さんは、この四年間で見事に目標を果たされたことを自信としてください。さらに、「病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる『共に生きる社会』の実現を目指す」という建学の精神のもとに学んだこと、全国に一九〇〇〇人を超える同窓のネットワークがあることは、皆さんの今後の大きな糧になると思います。

とはいえ、職業人としてはスタートを切ったばかりであり、今後、これまでより一層、「自分から学ぶ」という姿勢が求められますので、周囲からのアドバイスに謙虚に耳を傾ける姿勢が大切になってきます。そういう姿勢さえあれば、患者さんを含めて、周囲の人すべてが皆さんの先生になってくれると思います。そうした生活のなかで、ときに、大田原キャンパスを思い出していただければと思います。

本日、夢と希望と勇気をもって人生の新しい一歩を踏み出された皆さんの、今後のご活躍とご健闘を祈念いたします。

大学院長式辞（要約）　天野 隆弘

「医療プロフェッショナリズム」を胸に

本日卒業または修了される皆さんに、現在、医療と向き合ううえで誰もが指針としている「医療プロフェッショナリズム」ということばを紹介いたします。

ギリシャ神殿にたとえますと、天井が「医療プロフェッショナリズム」であり、それを四本の柱が支え、さらにこれを三段の土台が支えております。土台の一番下は、今日まで学んできた知識や技能、二段目は、患者様やご家族、さらにはほかの専門職とのコミュニケーション能力、三段目は、医療倫理やその他一般の法律に関する理解、遵守であります。

この土台の上に四本の柱が立っています。一つ目は「ヒューマニズム」で、患者様やご家族に対する思いやり、つまり、人の道であります。二つ目は「卓越性」で、現在身につけている知識でありますが、医療の世界では、絶えず磨き続けなければなりません。三つ目は「説明義務」で、患者様やご家族、社会に説明して了解を得ることであります。四つ目は「利他主義」で、常に患者様やご家族を第一に考えた行動がとれるということであります。

これを胸に、皆さんが本学の同窓生、同級生とともに、医療人としての道を歩まれることを念じております。

大田原市長祝辞（要約）　津久井 富雄様

大田原市を支える皆さんの活動に感謝

人生で最も多感な青春の時期を過ごした大田原での生活はいかがでしたか。ここ大田原は、自然豊かで人情味溢れるまちであると自負しております。そして、大田原での努力が実を結び、今、医療福祉の第一線に立とうとしていることをうれしく、また、誇りに感じております。

今日、「福祉のまち・大田原」が実現しましたのは、貴大学の先生や学生の皆さんのご支援があったからこそであります。ほほえみセンターでのお年寄りとの交流、子どもたちとの交流、障害児・障害者との交流、手話活動、与一まつりへの参加、大田原マラソン大会での選手の出迎えや沿道での応援、河川などの清掃奉仕活動などから大きな活力をいただきました。東日本大震災の復旧、復興にまつわる学生ボランティア活動の範囲は本市に向けたものにとどまらず、その継続的な活動により、福島県富岡町の社会福祉協議会から感謝状が贈られたことを大田原市民として誇りに思っております。

貴大学の卒業生が全国で活躍されることにより、大田原の知名度も向上しており、感謝に堪えません。大田原の地での経験を糧に、人々の幸せのために志を全うされることをお祈り申し上げます。

特集3 平成二八年度 学部卒業生・大学院修了生概要

平成二八年度 学部卒業生・大学院修了生概要

■学部卒業者　合計　**1385名**

- **保健医療学部　合計　560名**
- 看護学科　121名
- 理学療法学科　99名
- 作業療法学科　100名
- 言語聴覚学科　83名
- 視機能療法学科　44名
- 放射線・情報科学科　113名

医療福祉学部　合計　178名

- 医療福祉・マネジメント学科　178名

薬学部　合計　124名

- 薬学科　124名

小田原保健医療学部　合計　156名

- 看護学科　61名
- 理学療法学科　48名
- 作業療法学科　47名

福岡看護学部　合計　98名

- 看護学科　98名

福岡保健医療学部　合計　269名

- 理学療法学科　88名
- 作業療法学科　52名
- 言語聴覚学科　35名
- 医学検査学科　94名

■大学院修了者　合計　**251名**

修士課程　合計　203名

- 医療福祉学研究科　合計　202名
- 保健医療学専攻　138名
- 医療福祉経営専攻　41名
- 臨床心理学専攻　23名

薬科学研究科　合計　1名

- 生命薬科学専攻　1名

博士課程　合計　48名

- 医療福祉学研究科　合計　44名
- 保健医療学専攻（うち論文博士乙種合格者　5名）　44名
- 薬学研究科　合計　4名
- 医療・生命薬学専攻　4名

■卒業する留学生

- 保健医療学部　看護学科
- 施 羽（シ ウ）＝台湾
- オクチャビル バトトンガラグ＝モンゴル
- 金 紅蓮（キン ホンレン）＝中国
- 保健医療学部　放射線・情報科学科
- 呉 志勝（ゴ シショウ）＝中国
- 范 睿恒（ハン エイコウ）＝中国
- 医療福祉学部　医療マネジメント学科
- 陸 雅錦（リク ガキン）＝中国
- 朴 俊花（ボク シュンカ）＝中国
- 福岡看護学部　看護学科
- 孫 銘潞（ソン メイロ）＝中国
- 小田原保健医療学部　看護学科
- 李 丹阳（リ タンヨウ）＝中国
- 小田原保健医療学部　理学療法学科
- 王 瑾捷（オウ ケイショウ）＝中国

■修了する留学生（修士課程）

- 作業療法学分野
- トートールウィン＝ミャンマー
- 助産学分野
- ピョーピョーカイン＝ミャンマー
- 理学療法学分野
- 李 文菊（リ ウェンチュイ）＝中国
- 柳 太善（リュ テソン）＝韓国
- 福祉支援工学分野
- 陳 建聡（チン ゲンソウ）＝中国
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
- 呂 鷲（ロ ゴウ）＝中国
- 沈 文（シンブン）＝中国
- ヴートウンアイン＝ベトナム

■修了する留学生（博士課程）

- 医療・生命薬学専攻
- ニューミスエ＝ミャンマー
- 理学療法学分野
- 王 洪昭（オウ コウシショウ）＝中国
- 医療福祉国際協力学分野
- ミンタジンアウン＝ミャンマー
- 医療福祉経営学分野
- シュムプラング ナッタデット＝タイ
- 傅 小倩（フ ショウセン）＝中国

（論文未提出 満了）

【博士課程修了者（論文博士を含む）】
（論文タイトルは変更される場合があります）

- **河口 朝子**（看護学分野）ハンセン病回復者のセルフ・スティグマの生成過程に関する実証的研究
- **小檜山 敦子**（看護学分野）妊産褥婦における妊婦貧血の発症および貧血非改善の影響要因
- **柴田 滋子**（看護学分野）訪問看護師の業務特性がバーンアウトに与える影響
- **根岸 貴子**（看護学分野）夫が認知症の妻を介護する過程で直面する介護課題の克服プロセスとその支援
- **片山 典子**（看護学分野）青年期統合失調症者の臨界期における訪問ケアリストの開発
- **長澤 久美子**（看護学分野）男性を対象とした認知症家族介護準備プログラムの検討
- **糸嶺 一郎**（看護学分野）新卒看護師の社会人基礎力がバーンアウトに及ぼす影響
- **瀬戸口 ひとみ**（看護学分野）地域で生活する統合失調症当事者の病との「折り合い」のつけ方
- **石坂 勇人**（理学療法学分野）肺がん切除術における手術後運動耐容能の影響因子について
- **王 洪昭**（理学療法学分野）Effect of Combined Resistance Exercise of Knee-extension with Hip Adduction on Dynamic Balance Performance in Healthy Male Adults - a Newly Developed Knee Extension Resistance Exercise
- **小野田 公**（理学療法学分野）関節位置覚検査のモバイル端末アプリケーション開発と臨床応用への検討
- **木村 和樹**（理学療法学分野）糖尿病性多発神経障害が身体機能に及ぼす影響
- **後藤 和也**（理学療法学分野）要支援者における介護度の違いによる特徴
- **齋藤 孝義**（理学療法学分野）TENSIOMYOGRAPHYを用いたつまずき群，非つまずき群における筋特性評価とパフォーマンステストとの関係について
- **櫻井 陽子**（理学療法学分野）二重課題のパフォーマンスに課題特性が及ぼす影響と課題選択への影響因子に関する研究
- **志村 圭太**（理学療法学分野）標高の違いと加齢変化からみたボリビア多民族国民の身体的特徴―健康づくり支援のための基礎データの提示―
- **林 翔太**（理学療法学分野）加齢が持ち上げ動作時の姿勢と腰部負担に与える影響―精神作業負荷の影響を含めた検討―
- **松岡 文三**（理学療法学分野）脳卒中後片麻痺患者における深部静脈血栓症に対する各理学的予防法が麻痺側下肢静脈還流に与える影響
- **雄鹿 賢哉**（作業療法学分野）音楽聴取における生演奏の有用性と評価手法の検討
- **白砂 寛基**（作業療法学分野）急性期から応用的活動を積極的に用いる作業療法介入の検証～作成した院内活動表を用いて～
- **坂本 圭**（言語聴覚分野）聴覚障害者における早口音声聴取能と関連要因の検討～補聴器装用者と人工内耳装用者の比較～
- **佐藤 妙子**（言語聴覚分野）アルツハイマー病における発話意図の理解―比喩表現の理解からの検討―
- **黒澤 千尋**（福祉支援工学分野）健常高齢者におけるTimed Up and Go testの運動学的分析
- **須藤 大輔**（福祉支援工学分野）高齢者における身体機能と身体能力認識が隙間通過時の運動戦略に及ぼす影響
- **柴田 晃希**（福祉支援工学分野）聴覚リズム刺激が下腿切断者の歩行に及ぼす影響
- **岡 真一郎**（リハビリテーション学分野）皮質前庭中枢への経頭蓋直流電流刺激が平衡機能に与える影響
- **松﨑 秀隆**（リハビリテーション学分野）臨床実習における不当待遇から捉えた教育指導法に関する研究
- **CHOOMPLANG NATTADECH**（医療福祉経営学分野）国際医療機能評価機構（JCI）受審における病院の組織風土と職員意識への影響に関する研究
- **田口 有里恵**（医療福祉経営学分野）我が国の高リスク飲酒者に対する飲酒量低減治療の経済効果
- **MYINT THAZIN AUNG**（医療福祉国際協力学分野）Development of a rapid, highly sensitive, PCR diagnosis method against microbiological pathogens in bloodstream infection
- **田代 由美**（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）盲養護老人ホーム入所者によるボランティア活動に関する研究―地域での交流による変化―
- **佐藤 ユキ子**（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）救命救急における心肺蘇生処置現場への立ち会いに関する家族の意識
- **坂田 佳美**（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）介護はチームワークの下で実践されているのか―介護老人福祉施設における介護の実態から―
- **中澤 雅代**（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）介護老人福祉施設に従事する生活相談員の職務内容及び役割に対する意識
- **泉 洋枝**（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）居宅支援事業所のケアマネジャーの自立支援に対する意識とケアマネジメントの実践から浮かび上がる課題に関する研究
- **松本 明美**（医療福祉学分野）看護師の仕事と在宅介護の両立・継続を目指すための支援の検討
- **矢口 大雄**（医療福祉心理学分野）高齢者臨床における粘土対話法の心理学的考察
- **松岡 知子**（看護学分野）第二反抗期が出現する子どもを養育する初産婦の育児ストレスの特徴と要因―質的・量的による分析―
- **松村 耕平**（医療福祉経営学分野）原発事故における病院避難の在り方に関する考察
- **大井 伸子**（助産学分野）低出生体重児の母親への遠隔育児支援に関する検討
- **千代丸 正志**（福祉支援工学分野）加齢変化が自然立位時の体幹及び下肢関節角度変化に与える影響―高齢健常男性と若年健常男性の比較―
- **鈴木 陽子**（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）特別養護老人ホームの看護職の役割に対する看護職と介護職の認識
- **荒西 利彦**（医療・生命薬学専攻）薬剤経済評価の不確実性とその対処法
- **今井 太郎**（医療・生命薬学専攻）漢方治療に対する経済評価の現状
- **NYO MI SWE**（医療・生命薬学専攻）Benzfiindole誘導体の新規な反応性と生理活性物質合成への展開―抗マラリアおよび抗グリオーマ作用を指向した新規化合物の合成～
- **武田 弘太郎**（医療・生命薬学専攻）ストレスに対する認知・適応機構における5HT2受容体の役割

特集③ 卒業生総代

卒業生総代

大田原キャンパス
保健医療学部 放射線・情報科学科
山名 千尋
（栃木県立宇都宮中央女子高校出身）

多くの人に支えられた出会いの四年間

このたびは総代という貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

私は、講義や実験に追われながらも、友人たちとともに楽しい大学生活を過ごすことができました。臨床実習では、実際に患者さんに接することで、自分の未熟さや経験不足を痛感しました。そうした経験が、診療放射線技師として何ができるかを改めて考え直すきっかけになったと思います。

国際医療福祉大学での四年間は、多くの人に出会い、支えられた日々でした。お互いに切磋琢磨し合える友人たち、そして、熱心にご指導くださった先生方に深く感謝しております。

これから社会人として、また、医療人として新たなスタートを切ることになりますが、大学で学んできたことを忘れずに、患者さんに寄り添った医療を提供していきたいと思います。

小田原キャンパス
小田原保健医療学部 理学療法学科
王 瓊捷（オウ ケイショウ）
（中国出身）

先生、先輩、友だち、後輩に感謝

このたびは総代とさせていただき、とても光栄に思い、深く感謝いたします。

理学療法士は、寝たきりにならないようにさまざまな運動をするというイメージでした。しかし、勉強や実習をとおして、対象は小児から高齢者まで幅広く、病院のほかにもスポーツや産業の現場で活躍していることを知り、進む道が多彩であることに心を躍らせています。

本学科は、一年生から四年生まで縦の繋がりがあるアドバイザーグループというシステムが素晴らしく、短い時間で仲良くなれます。あっという間の四年間でした。留学生として、言葉や文化の壁で辛いときもありましたが、先生方が面倒を見てくださり、先輩、友だち、後輩に支えられ無事に卒業できたと思います。これからも、医療職として患者さんを支える理学療法士になれるように、精一杯がんばります。

福岡キャンパス・大川キャンパス
福岡保健医療学部 医学検査学科
渡邉 愛梨
（福岡県 筑紫女学園高校出身）

検査のスペシャリストをめざして

本学において、尊敬できる先生方、愉快な友人たちとともに過ごしたこの四年間は、私にとって最高の時間となりました。日々の授業のほかに、海外研修、ボランティア活動、学友会活動、クラス委員など本当にいろいろな経験ができ、私の中ですべてが思い出深いものとなっています。

これから臨床検査技師として新たなスタートを切ることになりますが、検体の向こうに患者さんがいらっしゃるということを常に念頭に置き、丁寧かつ正確な検査のできる臨床検査技師となれるよう向上心を持って日々挑んでいきたいと思います。

本学で四年間学んだ知識をもとに、検査のスペシャリストとなれるよう、より多くの技術を身につけ、経験を積んでいく所存です。

●支えてくれた先生と

大田原キャンパス

●支えあった仲間たちと

●支えてくれた両親と

●保護者席が近い
アットホームな雰囲気の会場

小田原キャンパス

●晴れやかな表情があふれた

福岡・大川キャンパス

●ゼミの先生と学生が
同じポーズで

●医学検査学科1期生と先生方の記念撮影

特集③ 学長賞受賞者

学長賞

保健医療学部

■理学療法学科 戸邉 裕介
（栃木県立黒磯高校出身）

■作業療法学科 鈴木 史織
（茨城県立牛久栄進高校出身）

■言語聴覚学科 宇井 里実
（千葉県立成東高校出身）

■視機能療法学科 酒井 あかね
（栃木県立宇都宮北高校出身）

■看護学科 角田 千秋
（栃木県立宇都宮中央女子高校出身）

■医療福祉・マネジメント学科 松本 佳菜
（栃木県立宇都宮中央女子高校出身）

医療福祉学部

■薬学科 太田 さおり
（山形県立鶴岡南高校出身）

薬学部

■看護学科 神田 具子
（神奈川県立柏陽高校出身）

小田原保健医療学部

■理学療法学科 王 瓊捷
■作業療法学科 斎藤 成美
（福島県立安達高校出身）

卒業生総代（一二ページに掲載）

卒業生総代（一二ページに掲載）

■看護学科 太島 美咲
（鹿児島県立大島高校出身）

福岡看護学部

■理学療法学科 丸田 あゆみ
（福岡県立香椎高校出身）

福岡保健医療学部

■作業療法学科 河野 まどか
（宮崎県立高鍋高校出身）

■言語聴覚学科 吉﨑 杏奈
（長崎県立川棚高校出身）

■医学検査学科 渡邉 愛梨

卒業生総代（一二ページに掲載）

特集③ 大学院長賞受賞者

大学院長賞

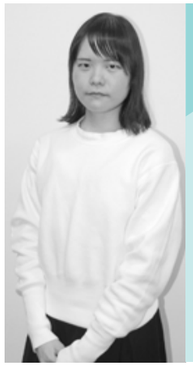
博士課程　保健医療学専攻
看護学分野
小檜山　敦子
修了生総代

研究の意義を問い続け、楽しさと魅力を知った五年間

指導教員から、「あなたの研究の結果が明らかになったところで、それが何の役に立つの?」と問われた五年前。研究の意義など考えておらず、ただ漠然と研究手法を学ぼうとした私がそこにいました。初学者である私に研究の目的や意義を明確にすることの大切さを何度もご指導いただき、自分の研究の立ち位置を知ることができました。そして、今日まで、妊産褥婦の貧血の予防・改善に対する保健指導の一助になればという思いで研究に取り組んでまいりました。

修士課程が修了し、博士課程で過ごした時間を振り返ると、「私の研究は世の中の役に立つのか」を常に考えていたように思います。それは、研究に対し、じっくりと考える時間でもありました。妊産褥婦の貧血の発症や非改善の影響要因を明らかにするために、数えきれないほどの先行文献を読み、その作業があって、研究の目的や意義が認識でき、他者に明確に伝えることができるようになれたのではと思っています。

また、指導教員をはじめ、多くの先生方、ゼミ生、家族の支えと、施設スタッフと多くの対象者のご協力があり、恵まれた環境で研究を遂行できたことに大変感謝しております。そして、何より自分の研究に対し、期待に胸をふくらませる時間を過ごせたことは幸せなことだと思っております。私に研究の楽しさと魅力をご教示いただいた皆様へのご恩を忘れずに、今後も熱心に研究活動に励み、主体性を持ってさらなる高みをめざし邁進していく所存です。



修士課程　保健医療学専攻
生殖補助医療胚培養分野
鞍本　友香

講義と実習が両立する環境、学会発表では山王病院のサポートも

私が所属していた生殖補助医療胚培養分野は、主に、胚培養士(エンブリオロジスト)と呼ばれている医療従事者を養成する分野です。胚培養士という職業は、ヒトの不妊治療に携わる医療専門職種であり、患者様の卵子や精子をお預かりして人工授精や体外受精を中心にさまざまな治療を行っています。

私は高校生のときに胚培養士を志すようになり、農学部のある大学に進学し、ブタの配偶子を扱った体細胞クローニング・臓器移植・体外受精など多岐にわたる研究を行う研究室に所属しました。大学在籍時に本校の存在を知り、ヒトに関する専門的な生殖医療の知識を深めたいと思い、ヒトの胚培養に関する専門的な知識を学ぶことのできる数少ない教育機関であるこの大学院の受験を決めました。

入学と同時に実習機関の山王病院でお世話になりながら、技術や知識を身につけました。それに加えて学会発表も山王病院にサポートしていただきました。講義と実習の両立がしやすい環境であり、カリキュラムが充実していたと思います。

こうして無事に修士号が取得できたことは、大学院の教授や講師の先生方、そして、いつも講義の準備などをサポートしてくださった大学院職員の皆様のご支援があったからです。本当にたくさんの方のお陰でここまでくることができました。これからは大学院で学んだことを生かして、一人でも多く、尊い命の誕生を手助けできるよう、さらに上をめざしていきたいと思います。

修士課程　医療福祉経営専攻
診療情報アナリスト養成分野
黒岩　千恵美

ハードだった二年間、勤務先のサポートに感謝

大学院への進学をめざした一番の動機は「学びたい」という単純な動機であり、日本で唯一の診療情報管理の大学院ということ、仕事を続けながら学べるということが決め手で進学を決めました。しかし、仕事を続けながら授業を受け、研究をするということは思った以上に大変でした。一年次では、仕事が終わってからのe-ラーニングや土曜日に授業を受けに東京の青山まで通うという肉体的な疲労、二年次では、研究のことをずっと考えているという、一年次とはまったく違った疲労と闘いながら、濃縮された二年間を過ごしました。

また、私のコースは課題研究を行うコースのため、勤務先のデータを使用させていただき研究を行いました。勤務先の理解や協力があって初めてスタートラインに立つことができたと思っています。そして、山本康弘教授をはじめ、指導教授の坂本千枝子准教授や斎藤恵一准教授といった分野の先生たちの指導のお陰で、論文という形にできたと思っています。もちろん、同期の仲間たちにも支えられて大変な二年間を乗り越えることができました。

今後は、アカデミアの一人として学術研究活動を続け、診療情報管理士として精進していきたいと思います。

第42回 キャンパスレポート 小田原

平成二八年度 学位記授与式

三月一〇日、小田原キャンパスで、小田原保健医療学部と大学院の学位記授与式を挙行した。当日は、時田光章小田原市副市長、小森哲夫国立病院機構箱根病院病院長、桃田寿津代神奈川県看護部長会会長をはじめ、多くのご来賓、保護者、教職員に見守られ、学部生一五六名(看護学科六一名、理学療法学科四八名、作業療法学科四七名)と、小田原・熱海キャンパスに所属する大学院生一七名(博士課程五名、修士課程一二名)に学位記が授与された。

大友邦学長、天野隆弘大学院長より学位記を受け取った総代は、王瓊捷(オウ ケイショウ)さん(理学療法学科)、林翔太さん(博士課程)、鈴木清美さん(修士課程)。続いて、学長賞が神田具子さん(看護学科)、王さん、斎藤成美さん(作業療法学科)に授与された。続いて、大友学長が「医療福祉の専門職としての道のりは始まったばかりです。毎日が勉強の場であることは変わりません。大学生のときより学ぶ姿勢が求められます。その姿勢があれば、患者さんを含め、周りの人たちみんなが、あなたたちの先生になるはずです。皆さまの今後の活躍と健闘を祈念しています」と式辞を述べた。そして、学部生を代表して斎藤成美さん、大学院生を代表して齋藤孝義さん(博士課程)より謝辞、神田さんより学部生からの卒業記念品の贈呈が行われ、学位記授与式は終了した。

午後は、所属に分かれ、学科長・大学院長より一人ひとりに学位記が手渡される学位記伝達式を行なった。

看護師、保健師、理学療法士、作業療法士としてのスタートラインに立った学部卒業生、学位論文を完成させてこの日を迎えた大学院修了生の今後の活躍を教職員一同祈念している。

(総務課　高久晃)

●学長賞を受賞した皆さん(左から、神田さん、王さん、斎藤さん)

●博士の学位を取得した皆さん

謝恩会

学位記授与式・伝達式の終了後、今年もヒルトン小田原リゾート&スパで、謝恩会を開催した。スクリーンに「Thank you party for the teacher」のタイトルが掲げられるなか、卒業生が先生方をエスコートしての入場で幕を開けた。冒頭、黒澤和生学部長、荒木田美香子副学部長、藤本幹作業療法学科長へ花束を贈呈し、お祝いの言葉をいただいた。黒澤学部長の乾杯を合図にプログラムがスタートした。

●黒澤学部長の乾杯を合図にスタート

抽選会では、実行委員が趣向を凝らして選んだ景品が用意され、笑顔で受け取る姿で大いに盛り上がりを見せた。続いて、各学科から、四年間の思い出と先生方への感謝のメッセージが込められた動画が上映された。国家試験対策、就職活動、実習のなか、限られた時間で作成した力作だ。多くの卒業生がスクリーンの前に駆け寄り、寄り添い、思い出の詰まった映像に見入る姿は、謝恩会ならではの光景だった。上映が終了し、会場が再び明るくなると、涙を浮かべる卒業生や先生方の姿が見られた。

テーブルを囲んで先生方と思い出話に花を咲かせるアットホームな雰囲気のなか、最後に、実行委員長の井上裕梨さん(理学療法学科卒業生)から、先生方と、四年間苦楽をともにした学友への感謝の言葉が述べられ閉会した。

閉会後も来年度へのアドバイスや今後の指示をする実行委員の顔に、四年間の成長の姿を見た。小田原キャンパスで培った絆は、それぞれが選んだ道へと歩みを進める卒業生たちにとって大きな未来への力になると確信した。

(学務課　下田智香子)

●いつまでも名残惜しい時間を過ごした

●実行委員長の井上さん

キャンパスレポート ●合同学位記授与式 ●福岡

大川キャンパス・福岡キャンパス 平成二八年度 合同学位記授与式

三月六日、福岡国際医療福祉学院体育館で、福岡保健医療学部・福岡看護学部・大学院合同学位記授与式を実施した。卒業生と修了生は、「達成感」と「喜び」、先生方や家族、友人への「感謝」、旅立ちへの「決意」を胸に式に臨んだ。

●上:会場の福岡国際医療福祉学院体育館　下:校歌斉唱

校歌斉唱に始まり、学部生三六七名(看護学科九八名、理学療法学科八八名、作業療法学科五二名、言語聴覚学科三五名、医学検査学科九四名)、大学院修了生四二名(博士課程五名、修士課程三七名)を代表し、初めて卒業生を輩出する医学検査学科一期生の渡邉愛梨さんに、学部総代として大友邦学長から学位記が授与された。続いて、天野隆弘大学院長から博士課程総代の河口朝子さん、修士課程総代の谷口隆憲さんに学位記が授与された。さらに、各学科の学業成績最優秀者の丸田あゆみさん(理学療法学科)、河野まどかさん(作業療法学科)、吉﨑杏奈さん(言語聴覚学科)、渡邉愛梨さん(医学検査学科)に学長賞が授与された。また、高木邦格理事長から島雄南さん(理学療法学科)、片桐舞子さん(作業療法学科)、深浦裕理さん(言語聴覚学科)に全国リハビリテーション学校協会「優秀賞」が、大友学長から川村和光さん(医学検査学科)に日本臨床衛生検査技師会「会長賞」、有馬ななみさん(看護学科)に日本私立看護系大学協会「会長賞」が授与された。さらに、赤池真美さん(理学療法学科)が日本理学療法士会「優秀賞」、濱島唯さん(作業療法学科)が日本作業療法士協会「優秀学生賞」、中野萌さん(言語聴覚学科)が日本言語聴覚士協会「会長賞」を受賞したことが発表された。

大友学長の式辞では「医療福祉の専門職としての道程は始まったばかり。学業を成し遂げた自分自身に誇りをもって、失敗を糧とし夢と希望をもって人生の新しい一歩を踏み出してほしい」との激励の言葉があった。天野大学院長の式辞に続き、来賓を代表して福岡県議会議員・藏内勇夫様、衆議院議員・古賀篤様から祝辞をいただき、丸田あゆみさんの「卒業生謝辞」、松﨑秀隆さんの「修了生謝辞」、河野まどかさんの「卒業記念品贈呈」をもって閉式となった。

●卒業生代表の渡邉さん

(事務部　森井一成)

第32回 福岡キャンパスレポート

「建陽大学看護学科の研修」受け入れ

一月一〇日から、韓国建陽大学看護学科の学生一六名、教員一名が福岡看護学部で一一日間の研修を行った。

「高齢者ケア―地域包括ケアシステムの構築に向けて―」をテーマに、日本の看護・介護制度について学修した。特に、韓国では珍しいスポンジブラシを用いた口腔ケアの演習は、興味深い様子で、患者さんの状況に応じたケアを選択することを学んだ。病院見学では、研修生から「韓国では、患者さんの身の回りの世話は家族が担うが、日本の看護師は、日常生活の援助を大切にしている」、「メディカルソーシャルワーカーや在宅支援システムは、韓国でも導入が必要だと感じた」などの声があり、高齢化社会における看護援助やケアシステムについて理解を深めた。

大学間連携共同教育推進事業「ナーシングキャリアカフェ」では、韓国の看護制度について紹介された。また、着付け体験や太宰府天満宮の視察では日本文化や歴史に触れた。

●母国の看護などについて発表する韓国の学生たち

●口腔ケア・嚥下訓練の演習

二週間の研修をとおして、「看護師という同じ夢を持つ仲間と未来について語り合うことができた」、「他国の視点でさまざまな物事を見つめる機会になった」という声が上がり、日韓双方の学生にとって大変有意義な研修であった。

(看護学科 助教　南嶋里佳)

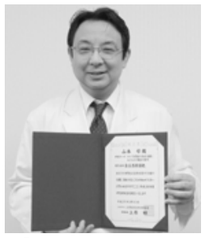
●着物体験をする韓国の学生

山本学教授が上原記念生命科学財団研究助成に採択

福岡山王病院外科部長の山本学教授が「公益財団法人上原記念生命科学財団平成二八年度研究助成」に採択され、三月一〇日に贈呈式が行われ、研究助成金を受け取った。

生命科学、特に健康の増進、疾病の予防および治療に関する諸分野の研究に意欲的に従事する日本在住の研究者が対象。山本教授の研究テーマは「タイプ別胃がんの発がん・進展における分子機序の解明」で、生命科学の発展に大きく貢献するとの評価を受けた。山本教授は「この助成に恥じることのないよう、研究を一歩一歩前進させたい」と語った。

(九州地区広報室　伊藤麻里子)



●「臨床研究者として光栄」と語る山本教授

キャンパスレポート ●合同学位記授与式 ●大川

福岡看護学部 学位記伝達式

福岡国際医療福祉学院体育館で福岡看護学部卒業生九八名の学位記伝達式を行った。卒業生は、名前が呼ばれると緊張した面持ちで壇上に上がり、斉藤ひさ子学部長から一人ひとり学位記を受け取った。「四年間がんばりましたね」との言葉を受けて涙ぐむ者、「ありがとうございます」と大きな声で学位記を受けとる者、斉藤学部長に握手を求める者など、それぞれが卒業の喜びをかみしめていた。

●看護学科

最後に、斉藤学部長から卒業生へはなむけの言葉が贈られた。その中で、ご自身も今年度で本学をご退職されることに触れ、卒業生とともに新たな道へ踏み出す一歩について述べた。卒業生は将来の希望に胸を膨らませ巣立っていった。

(看護学科 助教　馬場才悟)

福岡保健医療学部 学位記伝達式

福岡保健医療学部の学位記伝達式は、授与式と同じ福岡国際医療福祉学院の教室で学科別に行った。学科長をはじめ、お世話になった教員から一人ひとりに学位記が渡されると、卒業生だけでなく、その姿を見守るご家族も感慨ひとしおの様子であった。中でも、本年度初めての卒業生を輩出する医学検査学科では、永沢善三学科長から、「今後も日々勉強を積み重ね、あらゆる面でリーダーシップを発揮できる人材に成長してほしい」と激励の言葉が伝えられた。

●上:理学療法学科　下:作業療法学科

終了後は、友人や教員と会話に花を咲かせたり、家族とともに記念撮影をしたりする姿が多く見受けられ、会場はいつまでもにぎやかな雰囲気に包まれた。

教職員一同、卒業生の今後の活躍を祈念している。

(入試学生募集課　白水明生)

●初めて卒業生を輩出した医学検査学科

●言語聴覚学科

第46回 大川キャンパスレポート

理学療法学科 第三回障害者スポーツフェスタに参加

本学科では、在学中に初級・中級障がい者スポーツ指導員の資格が取得できる。その活動の幅を広げるため、一昨年度、部活動Para-Sports-Club(PSC)を設立した。これまで、知的障害児のスポーツ教室や全国障害者スポーツ大会福岡県代表団、JICA短期ボランティア(ペルー)など、障害者スポーツ関連の活動を幅広く行ってきた。

三月一一日、福岡県障害者スポーツ協会主催の障害者スポーツフェスタに参加した。午前は福岡県車いすバスケットボールチーム(ライジング福岡)から、専用の車いすの操作方法や基本的な動作、ルールなどの指導を受けた。午後は、福岡大学男子バスケットボール部(福大A)、同女子バスケットボール部(福大B)、西日本短期大学(西短大)、そして、PSCの四チームによるリーグ戦を行った。本学は、第一回から参加しているが、優勝経験はない。試合では、理学療法士をめざす本学の学生は車いす操作がうまく、ボール保有率が高い。しかし、シュートが入らない。一方、車いす操作は苦手でも確実にシュートを決める福大A。決定力不足に泣き、福大Aに敗れ、今回も二位であった。

●車いす操作に勝り、ボールを支配した本学チーム

二〇二〇年には東京パラリンピックが開催される。これからも多くの経験をとおして、障害者スポーツの第一線で活躍できる理学療法士をめざしてもらいたい。

(理学療法学科助教　下田武良)

深浦順一教授 第四五回医療功労賞を授与

へき地医療や救急医療、難病への貢献など、困難な環境のもとで長年にわたって献身的に医療活動を行う人を表彰する「第四五回医療功労賞」に本学大学院の深浦順一教授(日本言語聴覚士協会会長)が選ばれた。深浦教授は、障害でうまく言葉を話せない人の指導や、難聴児を早期発見するシステム作りなど、言葉や聴覚が不自由な人の支援を続けてきた。

表彰式は、三月一三日に東京・帝国ホテルで開かれた。式のあとは皇居で天皇皇后両陛下と面会し、天皇陛下から、「皆さんの活動がそれぞれの地域の人々の支えとなり、幸せをもたらしたことに深く感謝しています」とねぎらいのお言葉をいただいた。

(入試学生募集課　白水明生)

●表彰状を手にする深浦教授

キャンパスレポート ●大学院 ●塩谷看護専門学校

第16回 大学院 キャンパスレポート

三月八日、大学院の学位記授与式を挙行し、修士と博士の合計二三四名が修了し、また、論文博士として甲種・乙種合計一七名に博士の学位が授与された。

当日は肌寒いながら天候にも恵まれ、修了生たちは晴れ着やバチェラーガウンに身を包み、学部の卒業生たちとともに盛大に送り出された。また三月一〇日には東京青山キャンパスで学位記伝達式、修了生歓送会を実施し、約一〇〇名の修了生が参加し、天野隆弘大学院長から祝福の言葉とともに学位記が手渡された。歓送会では大学院長賞を受賞した博士課程の小檜山敦子さん、修士課程の鞍本友香さん、黒岩千恵美さんがあいさつし、研究を通じて得られた充実感や度重なる苦難、恩師や仲間たちへの感謝の気持ちなどが語られた。

●学位記伝達式の様子

修了生たちはそれぞれ相通ずる思いがあった様子で、静かに話に聞き入っていたのが印象的であった。

新しい年度を迎え、四月三日には大田原キャンパスで入学式を、八日には全キャンパスを遠隔システムで繋いでの全体オリエンテーションを実施した。昨年度に引き続き、多くの入学生を各キャンパスに迎えることができ、東京青山キャンパスでのオリエンテーションには約一五〇名の新入生が参加し、熱気に包まれた中でのスタートとなった。新入生たちは分野ごとのオリエンテーションや文献検索・履修登録方法の確認、研究倫理の講習会など盛りだくさんのスケジュールをこなし、翌週に迫った授業開始に向けてすでに余念がない様子であった。

赤坂キャンパスの開設を次年度に控え、移転を予定している東京青山キャンパスでは最後となる新入生を無事に迎え入れることができた。移転を見据えた慌ただしい一年となることが予想されるが、学生たちの学校生活に支障をきたさぬよう、教職員一丸となってスムーズな運営に努めていく。

（大学院運営室　近納一重）

●新入生オリエンテーションの様子

第24回 塩谷看護専門学校 キャンパスレポート

第九回生卒業式

三月三日、当校講堂にて第九回生三九名の卒業式を挙行した。冬の寒さも少しずつ和らぎ、春の訪れを感じさせるこの日、卒業生は色とりどりの袴姿に身を包み、晴れやかな表情で会場に現れた。

二〇〇名を超える来賓や保護者、在校生などが出席した。本校では卒業証書を受け取る際、「おめでとう」の言葉とともに江口光興学校長と握手を交わすのが恒例である。その握手には三年間のねぎらいと今後の期待が込められている。また、学校長式辞では、「〝青春とは心の若さである〟これからの人生、いつも前に進む若い心を持ち、信頼される看護師に育ってください」と祝いの言葉が述べられた。

九回生は入学当初よりとにかく明るく団結力のあるクラスであった。昼休みはいつも笑い声が絶えず、学校行事は真剣かつ全力で楽しんでいた。専門学校の三年間は講義に始まり、演習、実習、国家試験勉強と続き、ハードで休む暇のない生活が続く。そんな厳しい状況に置かれても、九回生はいつも楽しそうで、たとえ壁にぶつかっても仲間同士で励まし合いながら乗り越えていく様子が印象的であった。辛く苦しいときもあっただろうが、この三九名だったからこそ、こうやって実りのときを迎えられたのであろう。

式終了後は、後輩や教員、保護者といつまでも名残惜しそうに記念撮影する姿が見受けられた。晴れやかな表情の卒業生たちを見ながら、「一年のうち三六四日は叱咤激励しているが、たった一日、この日があるから救われる」と漏らしていた教員の言葉が印象的であった。

晴れて三年間の学びを終えた卒業生であるが、ここからが看護の道のスタートである。決して平坦な道ではないと思うが、九回生らしい持ち前の明るさと全力で取り組む姿勢で邁進していってほしいと教職員一同、祈念している。

（事務部　斎藤香織）

●一人ひとりと握手を交わす江口学校長

●校歌斉唱で涙ぐむ場面も

生涯学修のご案内

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学修の場を提供しています。

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

「働きながら大学院で学びたい」社会人が学びやすい3つの特長

①キャンパス	大田原、成田、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に7つのキャンパスを開設しています。
②カリキュラム	多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間に行っています。
③同時双方向遠隔授業	複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS **2018年4月　赤坂キャンパス開設予定!** ※設置認可申請中

東京都港区赤坂の旧赤坂小学校跡地に開設する赤坂キャンパスでは、現在の東京青山キャンパスを移転して新しい分野・コースを開設し、生涯教育の拠点として大学院教育のさらなる拡充をめざします。

詳細は大学院ホームページをご覧ください
http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/index.html

2017年度 入学生募集

学内推薦入試・入学金免除・奨学金制度あり
（本学卒業生及び卒業見込者対象）

国際医療福祉大学大学院の課程編成

医療福祉学研究科

修士課程

保健医療学専攻
- 看護学分野
- 特定行為看護師養成分野
- 助産学分野
- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚分野
- 視機能療法学分野
- 福祉支援工学分野
- リハビリテーション学分野
- 放射線・情報科学分野
- 生殖補助医療胚培養分野
- 医療福祉教育・管理分野
- 臨床検査学分野

医療福祉経営専攻
- 医療経営管理分野
- 診療情報アナリスト養成分野
- 医療福祉国際協力学分野
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
- 医療福祉学分野
- 医療福祉ジャーナリズム分野
- 医療通訳・国際医療マネジメント分野

臨床心理学専攻

博士課程

保健医療学専攻
- 看護学分野
- 助産学分野
- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚分野
- 視機能療法学分野
- 福祉支援工学分野
- リハビリテーション学分野
- 放射線・情報科学分野
- 生殖補助医療胚培養分野
- 臨床検査学分野
- 医療福祉経営学分野
- 診療情報管理・分析学分野
- 医療福祉国際協力学分野
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
- 医療福祉学分野
- 医療福祉ジャーナリズム分野
- 医療福祉心理学分野

薬学研究科

博士課程（4年制）

医療・生命薬学専攻

薬科学研究科

修士課程

生命薬科学専攻
- 生命薬学分野
- 医療薬学分野

大学院入試に関するお問い合せは入試事務室まで（TEL：0287-24-3200）

学べる！役立つ！究める！動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ

医療福祉eチャンネル http://www.ch774.com 好評配信中

主な配信番組

●介護・福祉分野
自立支援型ケアマネジメント・自立支援介護

●医療・福祉・経営実務
社会保障の政策形成の最前線2
保健医療福祉政策論2

●リハビリテーション共通分野
リハビリ職のための医療福祉管理

●受験講座
ケアマネジャー受験講座2017

●厚生労働省情報
障害保健福祉関係主管課長会議
（平成29年3月8日開催）※無料配信
老健局全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議
（平成29年3月10日開催）※無料配信

●乃木坂スクール
支援機器活用の最前線（生活支援機器概論）

●情報BOX
納得!カラダ事典(健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします)

お問い合わせは　フリーダイヤル　0120-870-774　医療福祉eチャンネル お客さま係（月曜～金曜 9:00～17:00）
Eメール info@iryoufukushi.com　〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

IHWグループ職員・学生向け動画配信サイト「国際医療福祉大学VODライブラリー」http://www.ch774.com/student.php

主な配信番組
●大学授業・副教材
死生学～死を通して生を考える～、教育学、雑談と傾聴～話す力と訊く力～、日本近現代史、宗教学、国際医療福祉論、世界遺産と国際文化政策、ボランティア論、医学・医療史、生命倫理、メディカルマナー入門、医療福祉教養講義、健康科学理論、リスクマネジメント論　など

広報誌 IUHW 109 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000
〔成田キャンパス〕
千葉県成田市公津の杜4-3 ☎0476-20-7701
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25（本校舎）☎0465-21-6500
〔福岡キャンパス〕
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4（1号館）☎092-407-0805
〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000
編集：大田原キャンパス入試広報室 ☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン　写真：米山真人

医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。
国際医療福祉大学

ホームページでもご覧いただけます。
http://www.iuhw.ac.jp/

ⓒ国際医療福祉大学2017　Printed in Japan　禁無断転載・複写

Ohtawara Campus

平成２８年度学位記授与式